

～～第8732回～～

針ノ木岳

～R1. 8. 1-3～

(1日目)前日に磐田を出発し、扇沢Pに着く。シーズンだけあって扇沢Pはほぼ満車状態だが、空いた場所にテントを張って仮眠する。6:15 扇沢登山口(1433m)から樹林帯のビョウブ尾根を登る。天気は安定していて晴天である。7:30 大沢小屋に着き、一服する。小屋では貸しヘルメットは扱っていない。8:30 北アルプス三大雪渓の一つ、針ノ木大雪渓をアイゼン、ヘルメット(推奨)を装着して登る。下界の猛暑が嘘のように上から冷気が降り注ぎ涼しい。白馬大雪渓と比べて急斜面なのでジグザグに登っていく。12:20 針ノ木小屋に着く。60人定員のところ80人が泊まるとの事で、我慢するしかない。ザックを小屋に置いて三百名山の蓮華岳(2798.6m)を目指す。珍しい白いコマクサを見ることが出来た。14:30 若一王子神社の奥宮が祀られる山頂に着き、15:40 小屋に戻る。小屋では早目に予約したせいか一人一つのフトンで寝ることが出来た。

山小屋情報：宿泊 9500 円、お弁当 800 円(おにぎり 2)、水 200 円(1リットル無料)

コースタイム：扇沢 615…大沢小屋 730…針ノ木小屋 1220-1310…蓮華岳 1420…針ノ木小屋 1540

(2日目)好天の針ノ木小屋を 6:05 に出発し、岩稜帯の急斜面を喘ぎながら登る。7:15 途中より朝日に受け、二百名山の針ノ木岳(2821m)山頂に着く。一気に展望が広がり、黒部湖を挟んで立山・劔岳が聳え立っている。残雪をたっぷりと残した立山・劔岳の頂きは雲の中だが貫禄十分だ。今回縦走の最高峰がここ針ノ木岳だ。この先三つのピークを越すが、いずれも 300～250mほど下降して登り返す岩稜帯だ。ここからは登山者はぐっと減りマイナーな山歩きだが、道はしっかりしている。スバリ岳ではブロッケン現象が見えたが、次第にガスがとれて赤沢岳では黒部ダムの堰堤まで見えた。ハイマツのなかにシャクナゲが咲いて気持ちの良い登山道だが、右手の針ノ木沢側は切れていて要注意だ。この真下は扇沢と黒部ダムを結ぶトロリーバスが走る関電トンネルだ。鳴沢岳を越すと岩が減り、高山植物が見え始める。新越山荘(2482m)へ 13:30 に着く。種池山荘への到着が遅れそうなので、ここで泊まることにする。この山荘は半地下式で厚いコンクリの基礎が見られ、八人部屋に七人と快適だ。鹿島槍ヶ岳から針ノ木方面への登山者は、予約いっぱい種池山荘を避けて新越山荘に来ている。夜半に雨が降り明日は晴天を期待したい。

山小屋情報：宿泊 9700 円、水 150 円(1リットル無料)期限切れ岳ビール 400 円

コースタイム：針ノ木小屋 605…針ノ木岳 715-40…スバリ岳 825-45…赤沢岳 1045-1130…鳴沢岳 1230-50…新越山荘 1330

(3日目)5:00 朝食、6:10 出発。15分で稜線に出ると、劔岳・立山の迫力に圧倒される。岩小屋沢岳で写真タイムを十分取る。種池山荘までは稜線散歩を楽しみのんびりと歩く。ちょっとした日蔭に雪が三カ所ほど残っており、積雪期の量の多さに驚く。キ

ヌガサソウがまとまって咲いていた。種池山荘は三方向からの凄い人。軽食の後、下り始める。シーズンの土曜日のせいか登ってくる人がとても多い。柏原新道は良く整備されていて快適に下れるが水場は全くない。扇沢駅の屋根が見えてから登山口までは小一時間を要する。13:10 下山し、大町温泉郷で汗を流し磐田への帰路に着く。

参加者：5名（磐田）

天気：晴れ

地図：黒部湖

コースタイム：新越山荘 610…岩小屋沢岳 710…種池山荘 910-40…柏原新道…登山口 1310

記録：磐田支部 ST・SS・RS